

2025年5月期 決算説明資料

2025年7月



 **室町ケミカル株式会社**
(東証スタンダード 証券コード：4885)

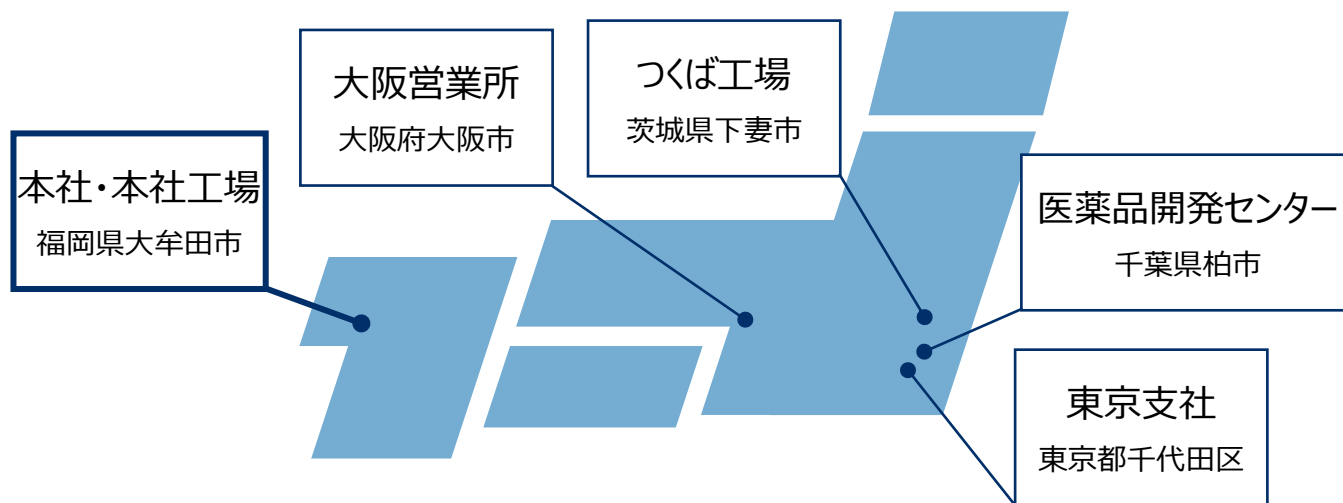
- 1. 会社概要**
- 2. 2025年5月期決算概要**
- 3. 健康食品事業からの撤退について**
- 4. 業績予想**

会社概要



会 社 名	室町ケミカル株式会社 (MUROMACHI CHEMICALS INC.)
代 表 者	代表取締役社長 青木 淳一
設 立	1947年7月（創立：1917年1月）
資 本 金	143,172千円
従 業 員	203名（パート・臨時従業員を除く）2025年5月末現在

< 拠 点 >



創立当時 (1917年頃)



大牟田市 本社工場

「医薬品」「健康食品」「化学品」の3事業

医薬品事業

医薬品原薬（薬の有効成分）の
製造・販売



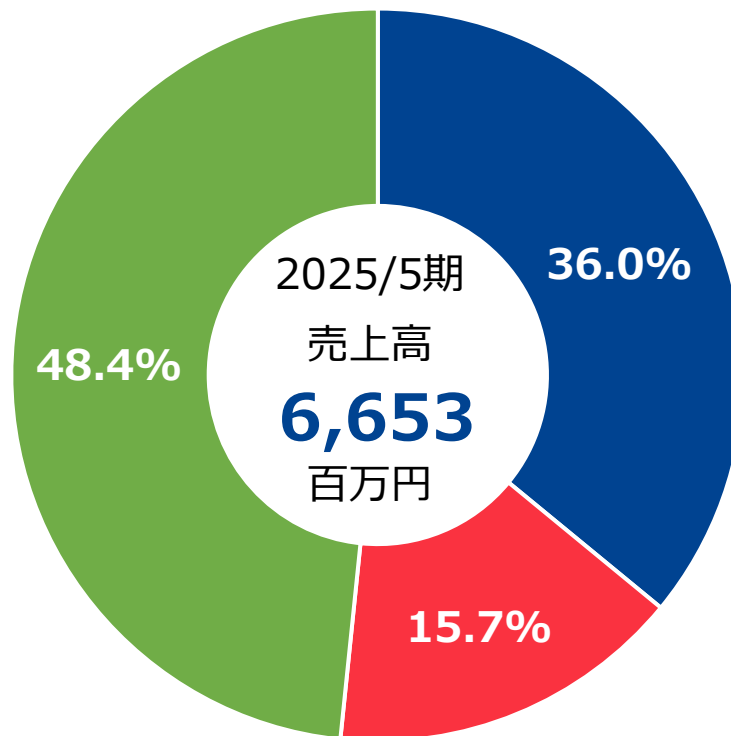
原薬の製造



原薬の精製・異物除去



海外原薬の輸入販売



化学品事業

液体から不純物を取り除く
液体処理製品の販売・加工



イオン交換樹脂



分離膜



水処理装置



イオン交換樹脂再生設備

健康食品事業

スティックゼリータイプなどの
健康食品の企画・製造



スティックゼリー



Tパウチゼリー

< パーパス >

「健康」と「環境」をテーマに、社会へ貢献する



< 経営理念 >

私たちは人々との出会いを大切にし、
常に新たなチャレンジと実現化の努力により
社会に貢献する企業を目指します。

2025年5月期 決算概要



- 売上高は前年同期よりやや増加し、概ね期初の想定どおり
- 工場稼働率向上・販売価格の見直し・販売構成品目の変化等により原価率改善も、健康食品事業の撤退決定に伴う在庫評価減等により売上総利益増加幅は縮小
- 販売費及び一般管理費は、開発部門経費を中心に増加

(百万円)

	2024/5期 通期		2025/5期 通期		前年同期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	6,369	100.0%	6,653	100.0%	283	4.5%
売上原価	4,514	70.9%	4,692	70.5%	178	4.0%
売上総利益	1,854	29.1%	1,960	29.5%	105	5.7%
販売費及び 一般管理費	1,432	22.5%	1,528	23.0%	95	6.6%
営業利益	421	6.6%	432	6.5%	10	2.5%
経常利益	428	6.7%	430	6.5%	1	0.5%
当期純利益	330	5.2%	241	3.6%	△88	△26.9%

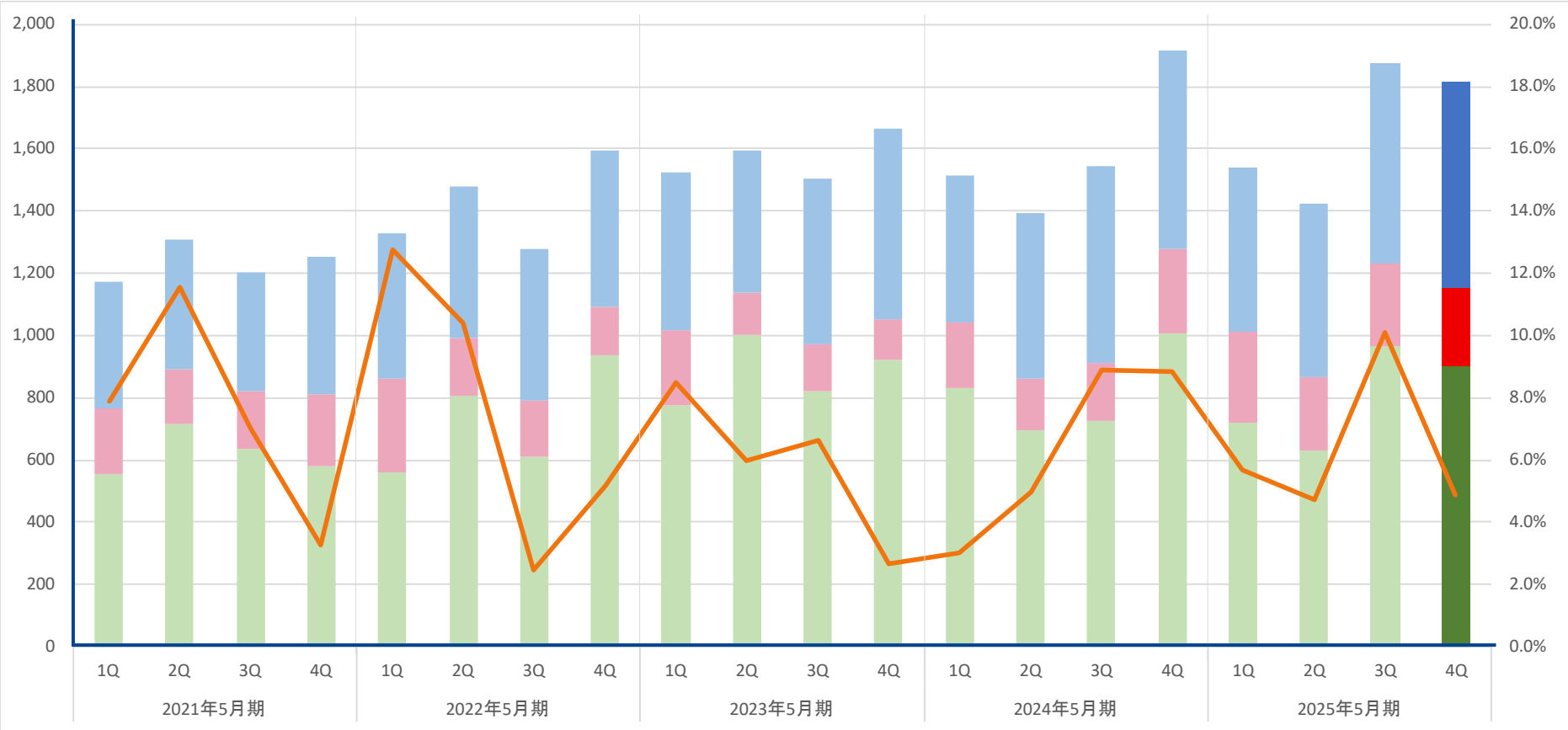
- 医薬品事業は、開発センター移転に伴う開発費増加を原価率改善により補う
- 健康食品事業は、OEMゼリーを中心として売上が増加したものの、撤退決定に伴う在庫評価減等により営業損失が拡大
- 化学品事業は、主にイオン交換樹脂の伸長により増収となり、営業利益は黒字転換

(百万円)

		2024年5月期		2025年5月期		前年同期比	
			構成比		構成比		増減率
売上高	医薬品事業	3,258	51.2%	3,217	48.4%	△40	△1.2%
	健康食品事業	834	13.1%	1,043	15.7%	208	25.0%
	化学品事業	2,276	35.7%	2,391	36.0%	115	5.1%
営業利益	医薬品事業	475	—	473	—	△2	△0.5%
	健康食品事業	△37	—	△ 98	—	△ 60	—
	化学品事業	△16	—	57	—	73	—

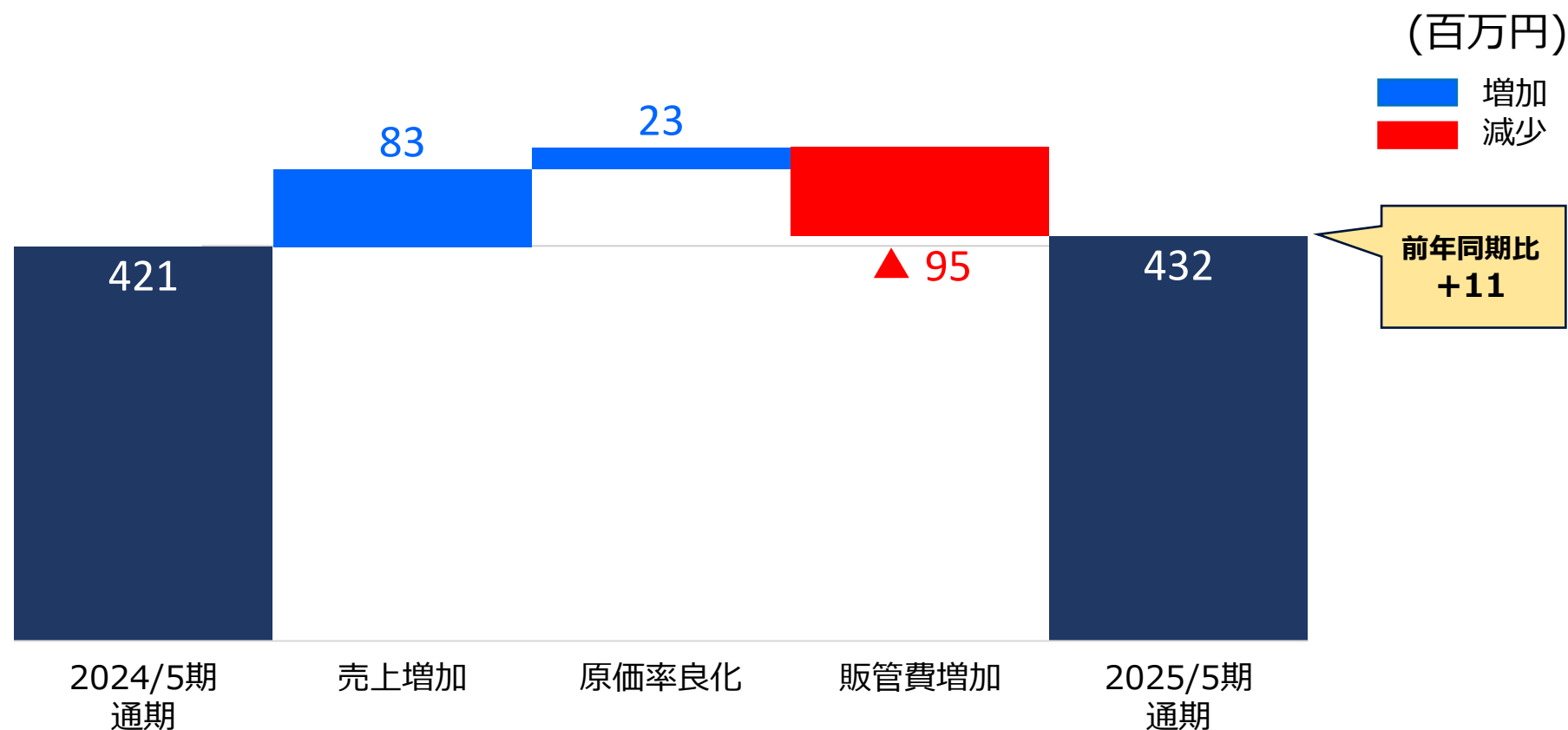
売上(百万円)

営業利益率

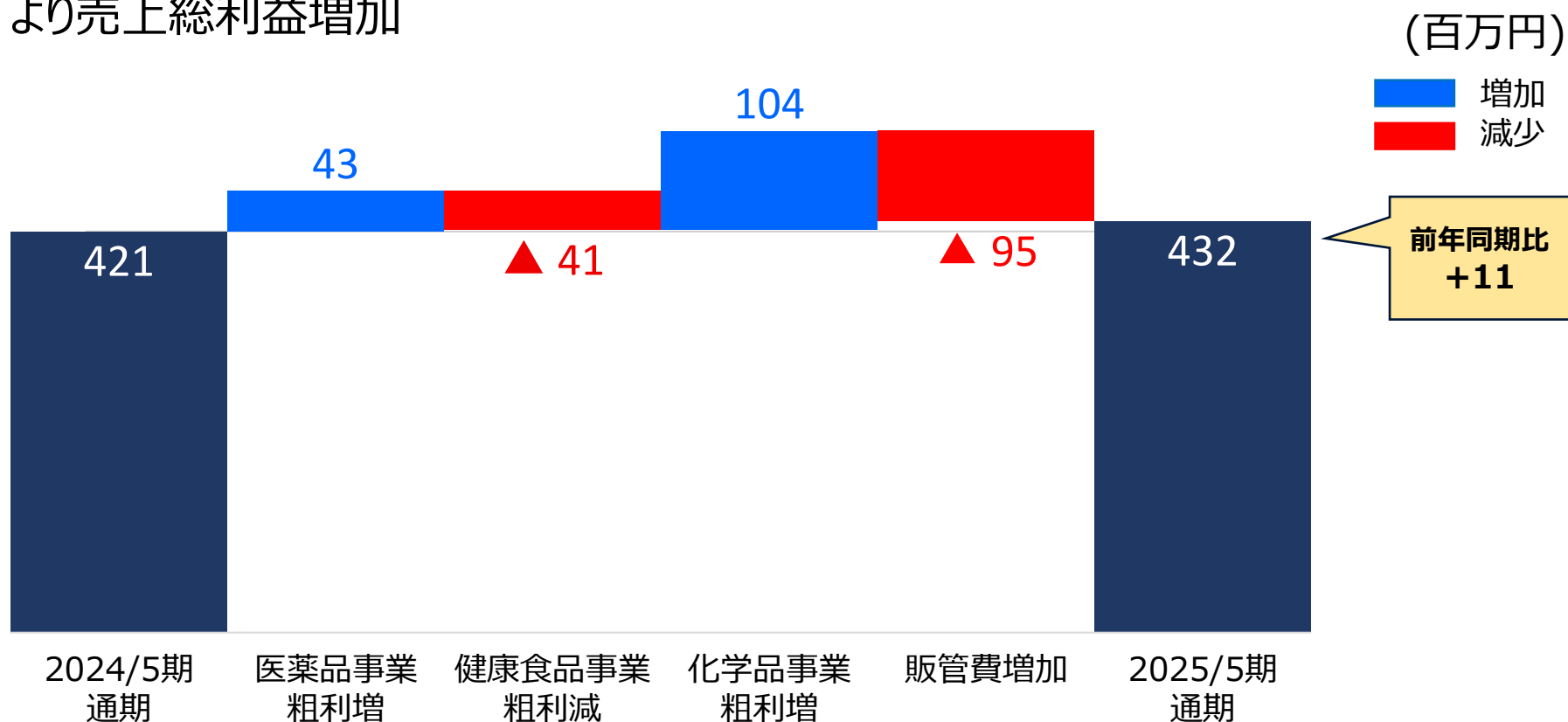


医薬品 健康食品 化学品 営業利益率

- 健康食品事業および化学品事業で売上が増加
- 工場稼働率向上・販売価格の見直し等による原価率改善により売上総利益が増加
- 販売費及び一般管理費は、開発部門経費を中心に増加



- 医薬品事業は、売上微減も原価率改善により売上総利益増加
- 健康食品事業は、OEMゼリーを中心として売上が増加したものの、撤退決定に伴う在庫評価減等により売上総利益減少
- 化学品事業は、売上増加に加え主に製造体制見直しの効果による原価率改善により売上総利益増加



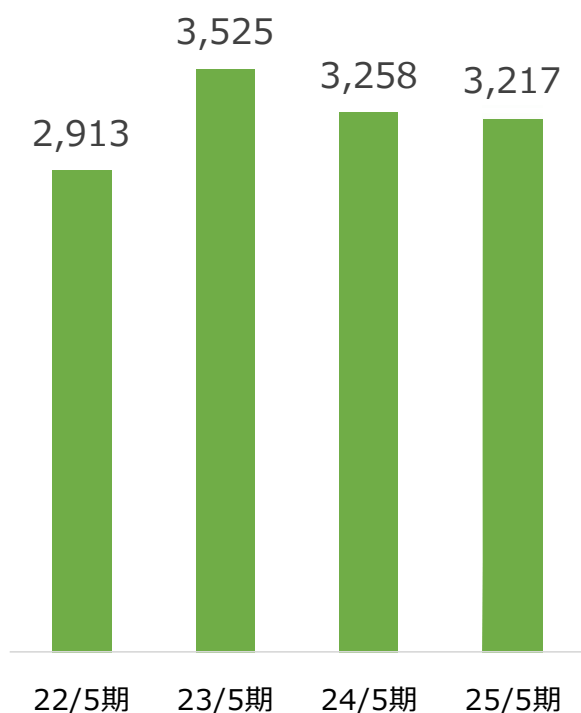
売上高
3,217百万円

(前年同期比)
(98.8%)

営業利益
473百万円

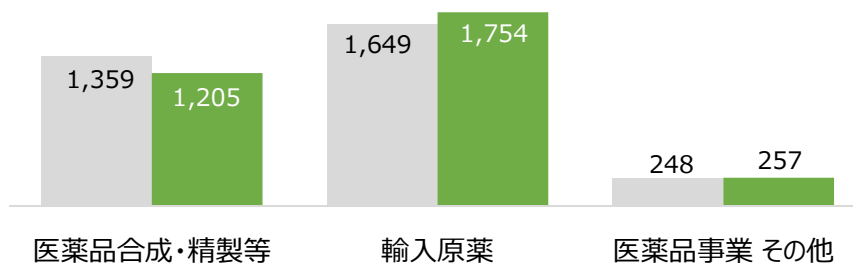
(前年同期比)
(99.5%)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



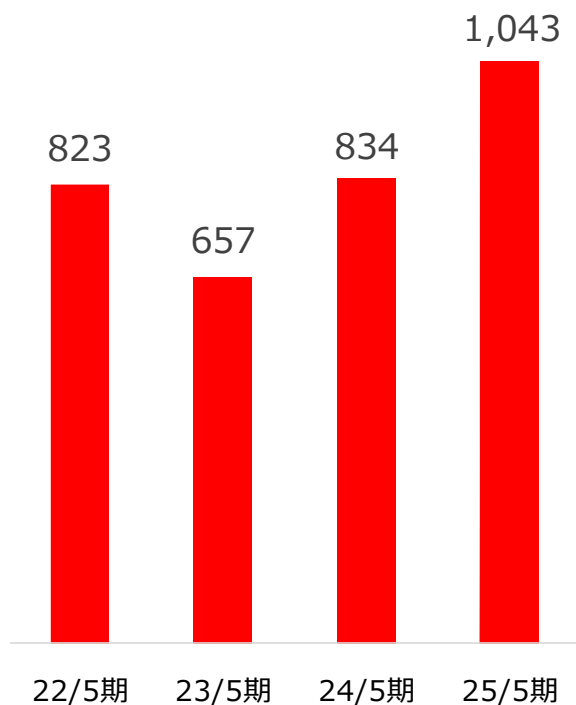
- 輸入原薬は、複数の新規取扱品目の納入や既存の抗炎症薬用原薬の伸長により、主力の抗てんかん薬用原薬の売上減少をカバー
- 円安へ対応した価格設定が進んだことや売上品目構成の変化により原価率が改善し、売上総利益は増加
- 2024年5月の開発センター移転に伴う費用等により開発費が増加
- 新規の輸入原薬の取り扱いに向けた活動と、合成・精製等の自社製造案件の獲得および速やかな立上げに尽力する

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



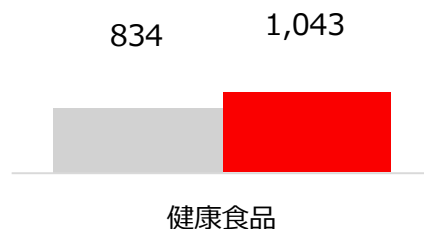
売上高	(前年同期比)	営業損失	(前年同期実績)
1,043百万円	(125.0%)	▲ 98百万円	(▲ 37百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)



- 前期に上市した大型OEM品や美容系製品を中心とした既存製品の売上が増加
- 売上増加により工場稼働率改善も、外注加工費等の製造費用が増加
- 開発力強化に向けた人員拡充により開発費が増加
- 2025年6月の「2026年5月末までの事業撤退」の決定に伴い、原材料在庫の評価損等を計上

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)



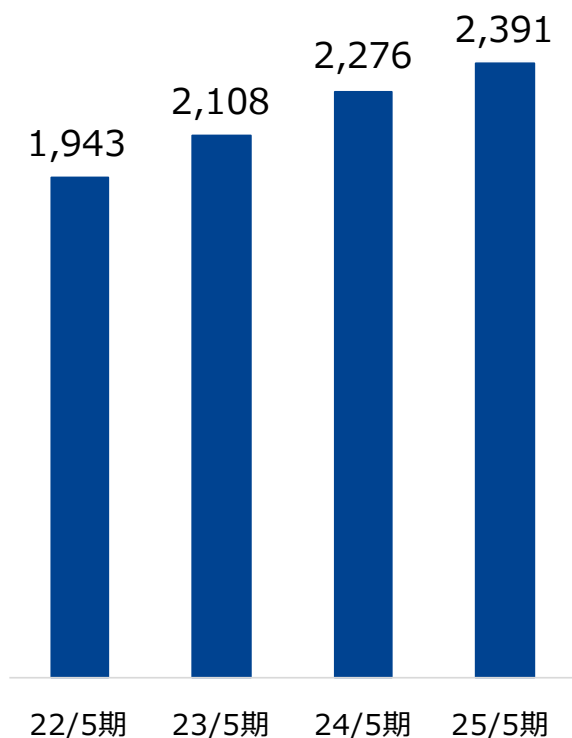
売上高
2,391百万円

(前年同期比)
(105.1%)

営業利益
57百万円

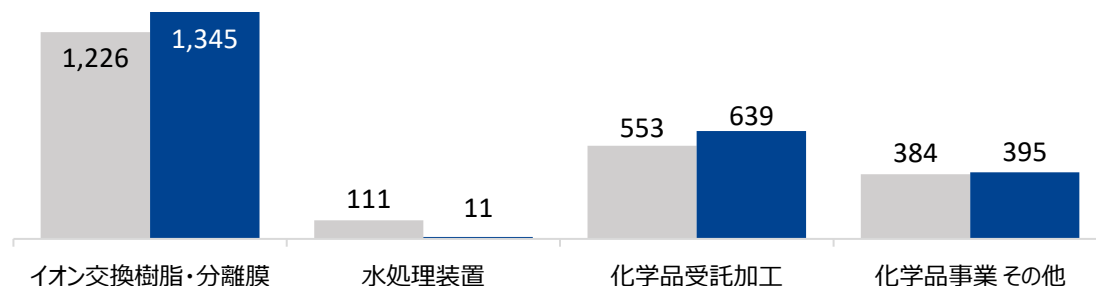
(前年同期実績)
(▲ 16百万円)

■ 売上高推移 (単位：百万円)

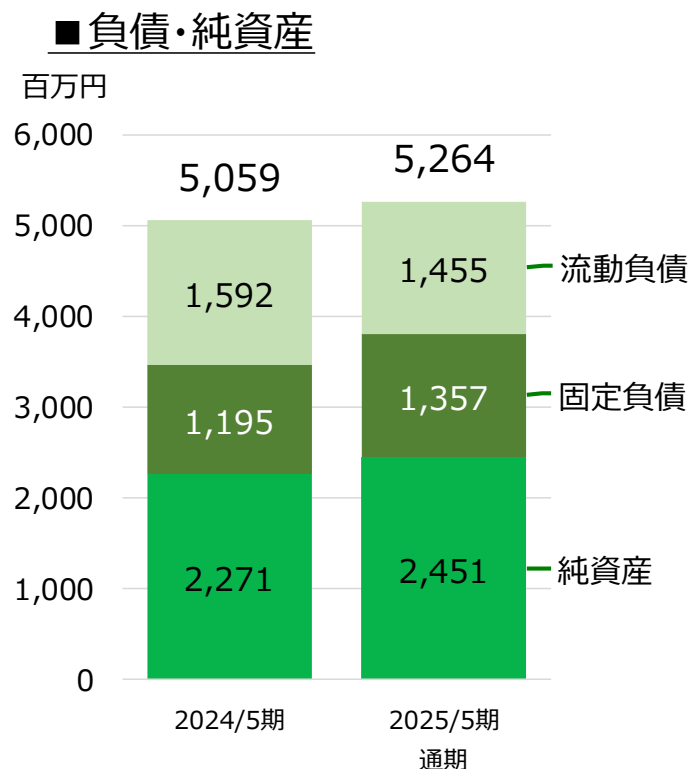
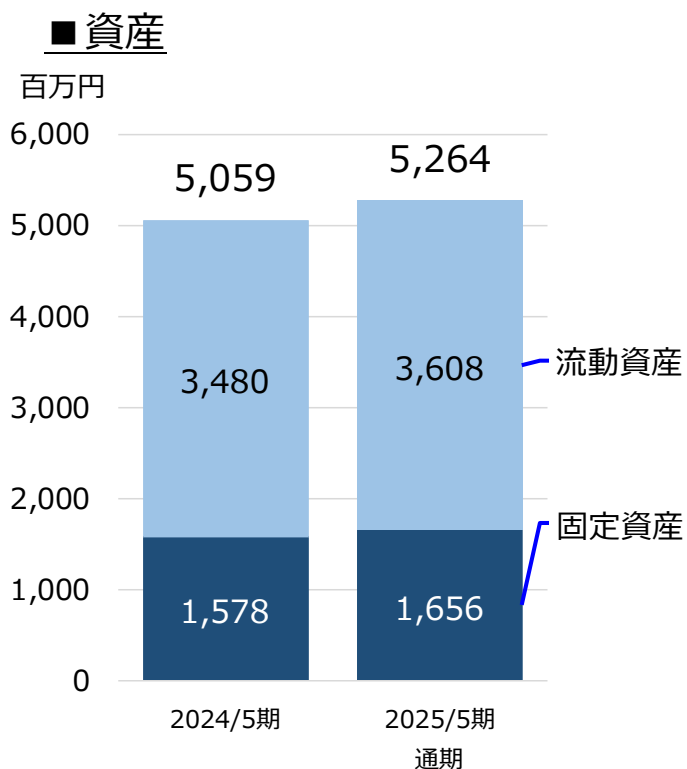


- 主力のイオン交換樹脂は、仕入販売品・自社加工品ともに販売が拡大
- 高機能イオン交換樹脂を推進力とした未開拓の業界への進出や、PFAS問題等の新たな課題を見据えて、営業・開発体制を拡充
- 顧客の抱える課題の聞き取りや当社の持つ技術をアピールするため、展示会出展や学会での講演・発表等を積極展開中
- アライアンスを活用した海外の大型案件獲得にも注力

■ 商材別売上高 (単位：百万円・■：前期 ■：今期)

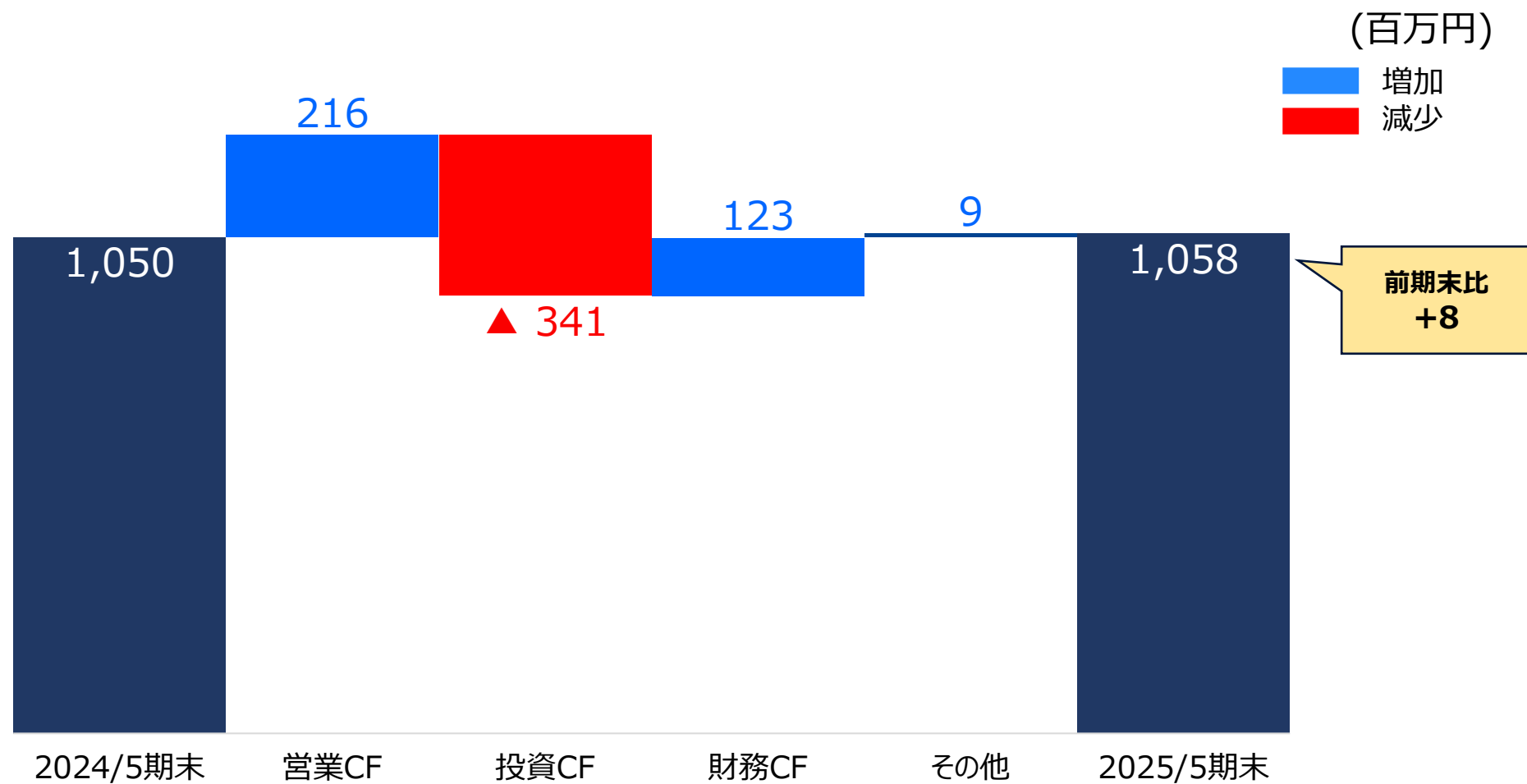


- 仕入・製造と販売のタイミングにより、製・商品在庫が増加
- 設備投資により固定資産が増加
- 資金需要に応じた長期借入金の調達



自己資本比率 : 46.6% (前期末比 +1.7pt)

- 医薬品開発センターの移転や工場設備の拡充等の投資を実施



健康食品事業からの撤退について



はじめに（株主・ステークホルダーの皆さまへ）

- ◆ 当社は2025年6月13日の取締役会において、健康食品事業から撤退することを決議いたしました。
- ◆ 本決定に際しましては、株主の皆様を始め、お客様やお取引様など、多くのステークホルダーの皆様に多大なるご負担をおかけいたします。
- ◆ 当社としましては、本決定により確保できる人員や工場・倉庫スペースを含めた経営資源を、より資本効率の高い他事業（医薬品事業・化学品事業）に振り向けることで、継続的な企業価値向上を図りたいと考えております。
- ◆ 株主の皆様、ステークホルダーの皆様におかれましては、本決定に対しご理解を賜り、引き続き当社事業にお力添えをいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

事業撤退に至った理由

- ① 他事業（医薬品・化学品）において、多数の新たな引き合い（増産・新規）があり、本社工場のキャパシティ（人員・工場/倉庫スペース・給排水）を更に拡張することが急務
- ② OEM品が主力という製品構成上、製造量とタイミングがコントロール出来ず、製造コストの抜本的な改善が困難
- ③ 新製品の開発の引合いは増えたものの、多様な開発品目に着手することに伴い、開発・営業コストが増加
- ④ 価格競争により十分な利益を確保することが困難
- ⑤ 上記②～④を理由として、健康食品事業の収益改善に限界
- ⑥ ①と⑤を鑑み、限られたリソース（人員・製造/物流スペース）を、より資本効率の高い他事業（医薬品・化学品）へ振り向けるべきと判断

3事業の業績推移

		2020年 5月期	2021年 5月期	2022年 5月期	2023年 5月期	2024年 5月期	2025年 5月期
健康食品事業	売上高	1,092	800	823	657	834	1,043
	営業利益	▲ 102	▲ 44	1	▲ 120	▲ 37	▲ 98
医薬品事業	売上高	2,559	2,487	2,913	3,525	3,258	3,217
	営業利益	446	475	452	539	476	473
化学品事業	売上高	1,629	1,656	1,943	2,108	2,276	2,391
	営業利益	▲ 45	▲ 61	▲ 16	▲ 50	▲ 16	57

撤退スケジュール

- 顧客（OEM委託元）および仕入先へ状況説明を行い、理解を得る
- すべての開発品の開発と新規獲得のための営業をストップする
- 契約が残っているOEM品については契約を全うする（2026年3月・製造終了予定、2026年4月・販売終了予定）
- 2026年5月末日 事業撤退完了

撤退スケジュール	2025年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月	5月
顧客・仕入先説明												
OEM品の製造												
OEM品の販売												
事業撤退完了												

今後の見通し

- 空いたスペース（工場・倉庫・事務所）を医薬品・化学品事業での新規案件立上げや既存品の増産への対応に有効活用する
- 異動先での人材の適応を急ぎ、上記の立上げや増産をスムーズに対応できる体制を早期に構築する

業績予想



- 医薬品事業・化学品事業については増収の見込み
- 健康食品事業において事業撤退に向けた処理により対前期で売上半減を想定
- 新規取り扱い原薬の製造開始や物流設備の拡充に向けた設備投資を実施
- 当期純利益は減益見込みも、配当は維持する方針

(百万円)

	2025/5期		2026/5期予想		前期比	
		構成比		構成比		増減率
売上高	6,653	100%	6,500	100%	△153	△2.3%
営業利益	432	6.5%	200	3.1%	△232	△53.7%
経常利益	430	6.5%	160	2.5%	△270	△62.8%
当期純利益	241	3.6%	100	1.5%	△141	△58.6%
配当金（円/株）	25.0	—	25.0	—	0.0	0.0%
減価償却費	154	—	227	—	73	47.4%
設備投資額	292	—	486	—	194	66.4%

医薬品 事業

売上高

2025年5月期

3,218 百万円



2026年5月期

3,400 百万円

- ・新規合成案件など自社製造品の伸長により、売上増を見込む
- ・新規品製造に向けた設備投資を加速

健康食品 事業

売上高

2025年5月期

1,043 百万円



2026年5月期

600 百万円

- ・契約の残るOEM品の製造・販売を全うする
- ・2026年5月に事業撤退完了予定

化学品 事業

売上高

2025年5月期

2,392 百万円



2026年5月期

2,500 百万円

- ・引き続きイオン交換樹脂の販売が堅調に推移する見込み
- ・新たな商材開発および新分野への進出に注力

参考資料



明治期 福岡県須恵町において「須恵目薬」の製造・販売開始

1917年 福岡県直方市に「大洋製薬合資会社」を設立

1924年 福岡市東区に移転『天洋社』と改称

1938年 福岡市南区に移転。

1944年 戦時企業整備（県内の製薬会社を1社にする制度）により会社を解散し、一時廃業

1947年 戦後、「鉄ペプトン製薬有限会社」として再設立

1948年 販売会社として、「株式会社天洋社」を再設立

1950年 「株式会社天洋社」を「鉄ペプトン製薬有限会社」に合併し、社名を「天洋社薬品有限会社」とする。

1952年 社名を「天洋社薬品工業株式会社」と改称

1971年 ムロマチグループに参入

1996年 福岡県大牟田市に本社工場を新築移転

1998年 『室町ケミカル株式会社』に社名変更

1999年 医薬品第二工場を新設 ISO9001認証取得

2003年 本社隣接地に物流倉庫新設

2005年 『天洋社薬品株式会社』設立 東京支店開設

2006年 健康食品製造工場操業開始
表面処理工場操業開始

2009年 新事務所竣工

2010年 コンパウンド工場操業開始 表面処理事業より撤退

2010年 室町(上海)商貿有限公司設立

2011年 第三医薬品工場新設 尿素水工場操業開始
ムロマチテクノス株式会社より、つくば工場譲受

2013年 新勝立倉庫竣工
東京都千代田区神田駿河台に東京支店を移転

2014年 『東進ケミカル株式会社』の全株式を取得し
100%子会社化
ムロマチテクノス株式会社を吸収合併

2016年 つくば工場にインキ接着剤工場を新設
機能性樹脂コンパウンド事業より撤退
大牟田本社に医薬品ゼリー工場を新設

2017年 東進ケミカル株式会社を吸収合併
大牟田本社に医薬品合成工場を新設

2018年 天洋社薬品株式会社を吸収合併

2019年 埼玉工場を閉鎖 室町(上海)商貿有限公司を清算

2020年 埼玉県和光市に埼玉開発センターを開設

2021年 東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場

2024年 埼玉開発センターを千葉県柏市に移転し、医薬品開発センターと改称

長年培った技術を活かし、お客様の事業をサポートします。

医薬品 事業

メーカー機能と商社機能を併せ持ち、原薬に関わる様々なサービスを提供

品質と価格を満たす原薬を調達できる「商社機能」と医薬品製造の「メーカー機能」を併せ持ち、原薬に関するトータルサービス（輸入・製造・加工・分析）を提供します。

健康食品 事業

高度なマスキング技術で、求める“おいしさ”を具現化

健康・美容成分には食べづらい味や匂いのものもありますが、それらを包み隠す「マスキング技術」で、続けることが大切な健康食品にとって重要な「おいしさ」のご要望にお応えします。

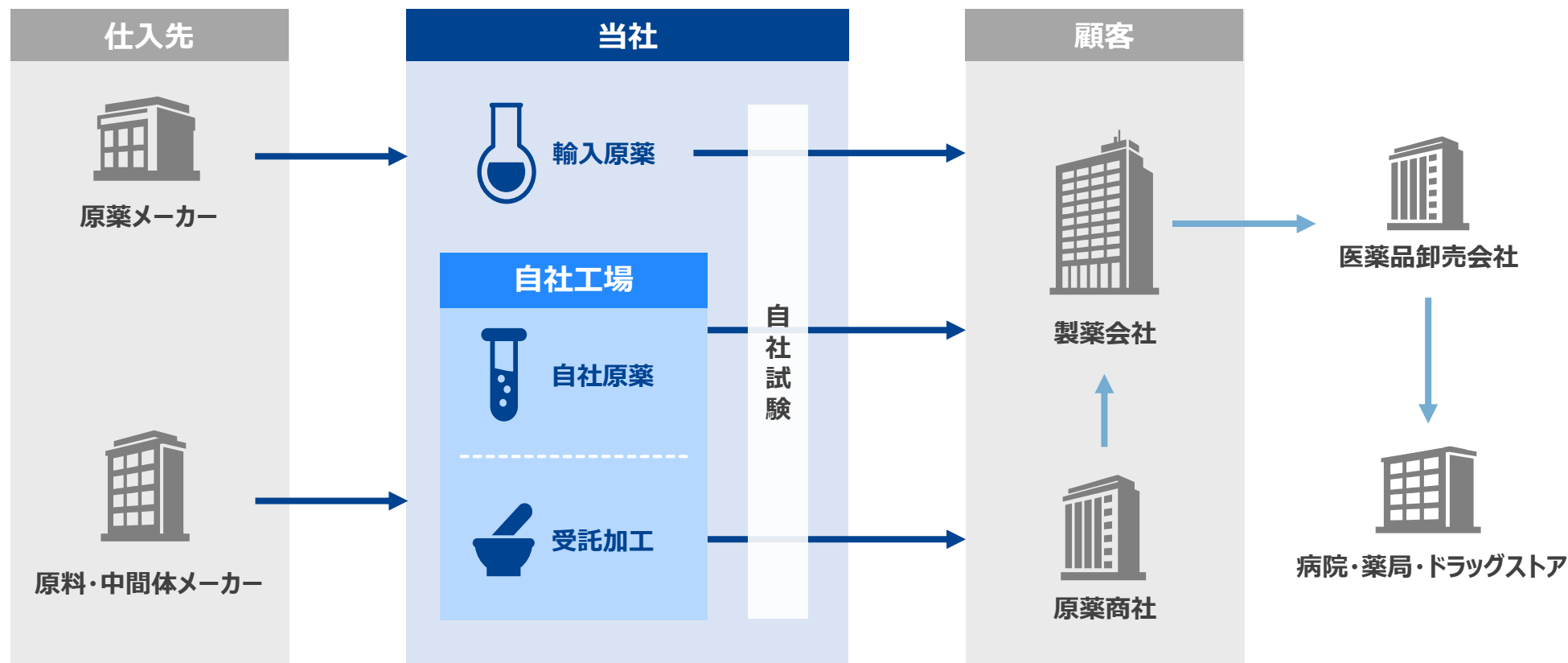
※2026年5月期末 事業撤退完了予定

化学品 事業

特殊な用途にも対応できる技術で液体処理の課題を解決

排水の処理や薬品の精製などの特殊な用途でも、豊富な製品ラインナップと長年培ってきたノウハウで最適な製品や処理方法をご提案します。

病院や薬局などで提供される医薬品は、有効成分となる「原薬」と様々な添加剤で出来ています。
 当社の医薬品事業では、この「原薬」の製造・販売を行っています。
 現在当社が取り扱っている原薬は、医療用医薬品* (ジェネリック医薬品*) 向けが主となっております。



* 医療用医薬品(医家向け医薬品)

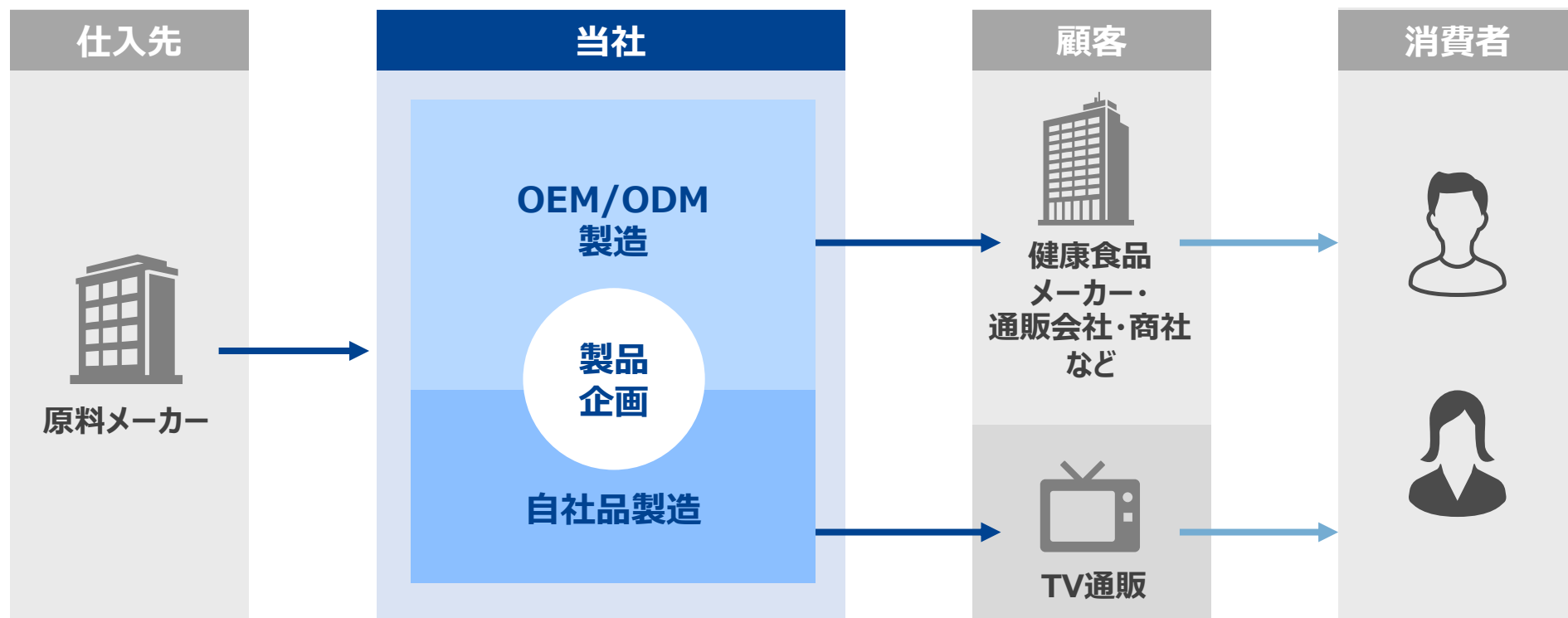
・・・病院で医師の診断をもとに処方してもらう薬のこと。対して、薬局等で購入できる薬を一般用医薬品(OTC薬品、市販薬)という。

* ジェネリック医薬品(後発医薬品)

・・・新薬(先発医薬品)の特許が切れた後、同じ有効成分を使って製造される薬。新薬に比べ開発費用が抑えられるため低価格で提供される。

健康食品には、錠剤、カプセル、粉体、ドリンクなど様々な形態がありますが、当社は、「スティックゼリー」タイプの健康食品の企画・製造を行っています。現在は、OEM・ODM*が主となっており、売上の8割を占めています。

スティックゼリーの健康食品は、おやつ感覚でおいしく、水が無くても摂取できる、携帯しやすい、などの特徴があります。



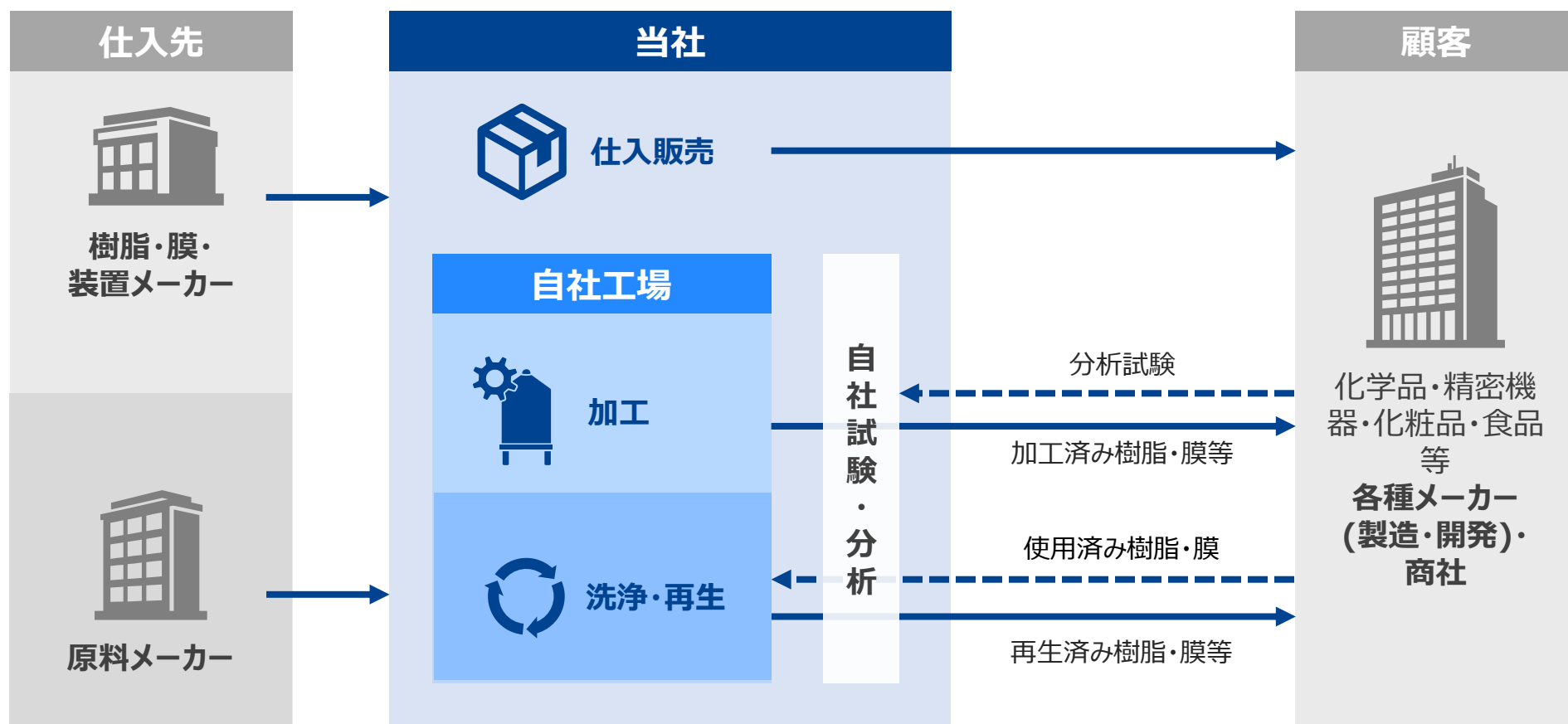
* ODM(Original Design Manufacturing)

・・・発注元企業のブランド名で販売される製品の、製造のみを行うOEM (Original Equipment Manufacturing) に対し、ODMは企画や設計、製造までを行う。

液体処理に使用される「イオン交換樹脂」や「分離膜」を取り扱っています。目的に適した製品の提案をするほか、使用に適するよう加工も行います。

様々な業界の製造や開発の現場で使用される純水や軟水の製造、薬品の精製、排水の処理など、活用される場面は多岐にわたります。

他に、接着剤やペーストなど機能材料の加工や販売をおこなっています。





＜本資料に関するお問い合わせ先＞
室町ケミカル株式会社 経営企画室
E-mail : ir-kikaku@muro-chem.co.jp

＜本資料取扱上の注意点＞

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、経営環境の変化等により、予告なしに変更される可能性があります。また、実際の業績等は様々な要因により変動する可能性があります。

掲載の内容については未監査の数値も含まれており、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報やその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資家の皆様に当社をご理解いただくことを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。